

高知県が主な舞台,ロケ地となった映画

—地域を活性化する映画—

岩崎保道¹

(¹高知大学 人文社会科学系 教育学部門)

A Film Shot in Kochi Prefecture as the Main Locale—A Film that will Reinvigorate the Region

Yasumichi Iwasaki¹

¹*Kochi University, Humanities and Social Science Cluster, Education Unit*

Abstract: This paper discusses the reinvigoration of a local area based on a movie filmed in Kochi Prefecture, which is the main locale of the movie. To do so, we introduce movies that are set in a local region and film productions that have received support from outside organizations.

キーワード:映画, 高知県, 地域振興

Keyword: Film, Kochi Prefecture, Regional Promotion

はじめに

本稿は、地域を活性化する映画について、高知県が主な舞台、ロケ地となった映画を通して考察するものである。高知県は、太平洋から四国山地の尾根にかけた地域にあり、四万十川、仁淀川などの清流も有名である。このような自然豊かな環境にあるが、高齢化や人口減に伴う過疎問題に加え、脆弱な経済基盤を背景とした財政問題など、多くの課題を抱えている。この状況の下、地域を活性化させる取組が求められる。例えば、地方における映画制作や公開の経済的な波及効果を期待することも、その一つである。高知県は名所など環境資源に恵まれていることに加え、高知県出身者の原作により高知を舞台とした作品が映画化されることが多い。そのことから、比較的、ロケーションツーリズムに乗りやすい環境にあると思われる（注1）。

地域において映画制作を行う意義について、次の意見がある。高橋（2013）は、「地域映画をつくることは、地域の歴史文化や埋もれている資源（観光・産業・人・モノ・技術などもすべて含め）を掘り起こす”まちづくり”そのものだ」と述べたり、つまり、ある地域を舞台にした映画制作は、その土地のあらゆる事象が関わることになるとともに、住民が自身の生活地域を見つめ直すことにもつながる。また、映画制作における経済効果として、ロケ地の地元滞在に伴う消費の直接的効果や映画鑑賞及び観光客の消費などの副次的効果が見込まれ、さらに、社会効果として、地域の認知度・イメージ向上やイベント創出といった地域の活力向上が期待できる²⁾。一方、近年では、クラウド・ファンディングを活用して資金を集め、映画製作費を補うといった事例が増えた。その手法が定着すれば、市民がより映画に関心を持ったり、何らかの形で関わる機会が増えていくだろう。

1. 地方を舞台にした映画

1.1 地方を舞台にした映画の事例

地方が舞台になった映画は多い。その最たるものは、「男はつらいよ」や「釣りバカ日誌」で取り上げられた作品群であろう。その他、一部を紹介すると、山形県の庄内地方が舞台となった「たそがれ清兵衛」（2002,山田洋次監督）、「隠し剣 鬼の爪」（2004,山田洋次監督）、「蝉しぐれ」（2005,黒土三男監督）が有名である。同作品は、藤沢周平原作の映画化であり、2000年前半に映画を契機として「山形ブーム」が起こったと言われる。静岡県浜松市が舞台となった「天まであがれ!!」（2006,横山一洋監督）は、凧揚げ合戦を通じたヒューマンドラマであった。同作品は、経済産業省「平成17年度地域におけるアーカイブ整備支援事業」に採択された。鹿児島県が主な舞台となった「THE WINDS OF GOD」（1995,奈良橋陽子監督）、「男たちの大和/YAMATO」（2005,佐藤純彌監督）、「LIMIT OF LOVE 海猿」（2005,羽住英一郎監督）は、大きな話題になった。静岡県三島市などが舞台となった「惑うAfter the Rain」（2017年一般公開予定,林弘樹監督）は、市民中心のグループ「みしまびとプロジェクト」の支援活動を受けた。

1.2. ロケーションツーリズム

映画に登場した舞台と、それに係る経済的効果は、強い関係を持つことがある。木村（2011）は、ロケーションツーリズムが一つのブームとして認識されつつあること、また、この観光現象の時系列的な変化などを①映画撮影地における観光行動の変化、②撮影地の観光地化、③観光客誘致、地域活性化の方法・ツールを指摘した³⁾。すなわち、映画を地域活性化の手法として捉え、映画のなかに地域の名所や特定の場所などを意識的に盛り込むことにより、ロケーションツーリズムを誘引する考え方である。映画の鑑賞者が作品に共感し、さらに、そのロケ地を訪問することは、鑑賞者にとって楽しみが増幅されることになるだろう。先駆けとなる事例として、大林宣彦が監督した「尾道三部作」と言われる「転校生」（1982）、「時をかける少女」（1983）、「さびしんぼう」（1985）がある。安田（2015）は、「映画では観光スポットに焦点を当てず、昔ながらの生活の場である尾道の風景を映し出した。これらの作品が、多くのファンの熱狂的な支持を集め、ロケ地巡りの旅行者を増加させ、「映画の街」として定着し今日まで続いている」と分析した⁴⁾。2000年代は、千葉県木更津市が舞台となった「木更津キャッツアイ 日本シリーズ」（2003,金子文紀監督）、茨城

県下妻市が舞台となった「下妻物語」（2004,中島哲也監督）,香川県と愛媛県が舞台となった「世界の中心で,愛をさけぶ」（2004,行定勲監督）,香川県が舞台になった「UDON」（2006,本広克行監督）,徳島県が舞台になった「眉山」（2007,犬童一心監督）などが話題になり,多くの映画ファンが観光客としてロケ地を訪れた。

2 外部組織の支援を受けた映画製作

行政が映画製作を支援する制度として,文化庁「文化芸術振興費補助金」事業や2010年に観光庁が募集した「スクリーンツーリズム促進プロジェクト」などがある。また,地方自治体がある特定の映画に係る製作費用の一部を負担した事例もある。さらに,ロケ誘致や支援を行う非営利機関としてフィルム・コミッションがあり,全国的組織であるジャパン・フィルム・コミッションに加盟する組織は2016年8月現在で100団体を超えた。同組織に加盟する高知フィルムコミッションは,2004年に（財）高知県観光コンベンション協会の広報事業の一環として設立された組織であり,高知県の魅力を映画やテレビ等の媒体で全国に発信するための役割を担う。これまで,映画,テレビ,CMの製作にあたり,県内のロケ地情報の提供,市町村役場等関係団体や地元住民との調整・連携,エキストラ等の募集や手配などの支援を行った⁵⁾（表1参照）。この支援活動により,映画製作者の業務負担が軽減されたと想像される。

3 高知県が主な舞台,ロケ地となった映画

表1は,高知県が主な舞台,ロケ地となった映画を示したものである。映画化に至った経緯や背景はそれぞれ異なるが,いくつかの作品は「原作者または脚本家が高知県出身であり,高知が舞台になった作品が映画化されたもの」,「原作または脚本において高知が舞台になった作品が映画化されたもの」,「シリーズ化された映画であって,高知が舞台になったもの」,「地元出身の有志が中心になって製作されたもの」などに分類できる。

映画公開年を年代別にみると,1960年代までは数本であったが,1980年代は宮尾登美子原作の作品が次々と映画化された影響で増加した。2000年代以降も高知県出身者の原作が映画化された。次に,主な舞台,ロケ地をみると,高知市が比較的多いが,四万十市や室戸市,宿毛市なども舞台またはロケ地となっている。

高知県が主な舞台,ロケ地となった映画が2000年以降,増加した背景に高知フィルムコミッションが果たした役割が大きい。2003~2013年まで,12本の映画製作の支援に関わっており,同団体の設立年以降,高知県が舞台となった映画製作が多くなった。また,「あらうんど四万十—カールニカーラン—」（2015）は,近年,活用が盛んになったクラウド・ファンディングが使われ,四万十市で開催された「第2回 四万十おきやく映画祭」（2013）において上映された。同作品は,監督をはじめ,出演者などが地元出身者であり,典型的な市民参加型の映画といえよう。

表1 高知県が主な舞台,ロケ地となった映画（映画サイト,高知フィルムコミッションのサイトを基に作成）（注2）

タイトル	監督	公開年	主な舞台,ロケ地	原作	脚本	主な出演
足摺岬	吉村 公三郎	1954	土佐清水市	田宮 虎彦	新藤 兼人	木村 功
南國土佐を後にして	齋藤 武市	1959	高知市,室戸市	川内 康範	齋藤 武市 ほか	小林 旭
孤島の太陽	吉田 憲二	1968	宿毛市	伊藤 桂一	千葉 茂樹	樫山 文枝
ボクは五才	湯浅 憲明	1970	高知市	-	高橋 二三	岡本 健
祭りの準備	黒木 和雄	1975	四万十市	-	中島 文博※	江藤 潤
トラック野郎・故郷特急便	鈴木 則文	1979	高知県	-	中島 文博※ ほか	菅原 文太
土佐の一本釣り	前田 陽一	1980	中土佐町	青柳 裕介※	前田 陽一 ほか	加藤 純平
鬼龍院花子の生涯	五社 英雄	1982	高知県	宮尾 登美子※	高田 宏治	仲代 達矢
陽暉楼	五社 英雄	1983	高知県	宮尾 登美子※	高田 宏治	緒形 拳
權	五社 英雄	1985	高知県	宮尾 登美子※	高田 宏治	緒形 拳
郷愁	中島 文博※	1988	四万十市	-	中島 文博※	西川 弘志
寒椿	降旗 康男	1992	高知県	宮尾 登美子※	那須 真知子	西田 敏行
ちんなねえ	林 海象	1997	赤岡町	-	-	麿 赤兒
いさなのうみ	日垣 一博	1997	室戸市	-	日垣 一博	二宮 哲也

タイトル	監督	公開年	主な舞台,ロケ地	原作	脚本	主な出演
狗神	原田 真人	2001	高知県	坂東 真砂子※	原田 真人	天海 祐希
釣りバカ日誌14 お遍路大パニック!○	朝原 雄三	2003	高知市,土佐清水市,大月町 など	やまさき 十三(作),北見 けんいち(画)	山田 洋次 ほか	西田 敏行
MAZE マゼ ～南風～○	岡田 主	2005	夜須町(現香南市),室戸市,高知市 など	-	岡田 主 ほか	蟹江 敬三
いけちゃんとぼく○	大岡 俊彦	2009	高知市,須崎市 など	西原 理恵子※	大岡 俊彦	深澤 嵐
The Harimaya Bridge はりまや橋○	アロン・ウルフォーク	2009	高知市,須崎市,佐川町,中土佐町	-	アロン・ウルフォーク	ベン・ギロリ
君が踊る、夏○	香月 秀之	2010	高知市,越知町,香南市 など	-	香月 秀之 ほか	溝端 淳平
パーマメント野ばら○	吉田 大八	2010	宿毛市 など	西原 理恵子※	奥寺 佐渡子	菅野 美穂
桐島、部活やめるってよ○	吉田 大八	2010	高知市	朝井 リョウ	喜安 浩平 ほか	神木 隆之介
毎日があさん○	小林 聖太郎	2011	高知市,中土佐町,芸西村	西原 理恵子※	真辺 克彦	小泉 今日子
県庁おもてなし課○	三宅 喜重	2013	高知県	有川 浩※	岡田 恵和	錦戸 亮
月の下まで○	奥村 盛人	2013	黒潮町	-	奥村 盛人	那波 隆史
あらうんど四万十一カールニカーラー○	松田 大佑※	2015	四万十市	西尾 純哉	西尾 純哉 ほか	西村雄正※

○=高知フィルムコミッションがロケ支援を行った作品,※=高知県出身者または高知県育ち

4. 今後の展望

映画の舞台となった土地やロケ地において、ロケーションツーリズムなど、経済的な波及効果を期待することは当然かもしれない。ただし、それぞれの映画について、正確な試算を行うことはできない。一方、映画は文化・芸術であり、単に利益を生み出す道具ではない。経済産業省(2009)は「映画には、人と時代を動かす大きな力がある」と述べたが、作品を社会に送り出すことで人々に感動や共感を覚えさせることのできる意義のある仕事である。その意味からすると、物語に名所・名物を詰め込んだ映画に仕上げるのではなく、地域の環境の下で培われた特有の文化や風土を練り込んだ脚本が、作品のクオリティーを高め、人々を惹きつけて、それが観光に結び付くのではないだろうか。

また、映画を通じて地域を活性化させるためには、地域住民が積極的に関わることも重要である。そのためには、フィルム・コミッションの役割が大きい。映画を通じて、高知県を舞台にした文化や風土を発信していくことが、地域の活性化や“まちづくり”につながっていく。さらに、それを一過性ではなく、持続的に行うことも重要な課題である。

[引用文献]

- 1)高橋和勲(2013)「地域社会の持続的発展に向けて(78)突破力ある主体的市民が、未来社会をつくる:地域映画を手段とした循環型地域活性」『信用金庫』67(7),p.46.
- 2)経済産業省 東北経済産業局(2008)「東北地域への映画(映像)事業の継続的誘致のための経済効果と課題に関する調査報告書」p.8.
- 3)木村めぐみ(2011)「映画撮影地における観光現象の可能性に関する一考察—撮影地関連情報に焦点を当てて」『コンテンツツーリズム研究』p.1.
- 4)安田亘宏(2015)「日本のシネマツーリズムの変遷と現状」『西武文理大学サービス経営学部研究紀要』(26),p.74.
- 5)高知フィルムコミッション:<http://www.kochi-fc.jp/creator.html#hojoseido>,2016年8月18日確認.
- 6)経済産業省(2009)「映画産業ビジネスモデル研究会報告書」,p.1.

(注1) ロケーションツーリズムとは、映画等の映像作品に関心を持った人々がロケ地を来訪するなど、特に観光面での活用に力点を置いて地域活性化につなげることを目的とするものをいう。

(注2) 現段階において一般公開されていない映画は除いた。また、筆者の判断により割愛した映画もある。